

2011年度

科目名	ゼミナールⅠ			
担当教員	小西 宏幸			
配当	人社3		コード	33095
開期	通年	講時	水曜日3限	単位数 4
授業テーマ	産業心理学・臨床心理学・教育心理学領域における心理アセスメントと心理療法(カウンセリング)			
目的と概要	企業や学校、さまざまな心理職が活躍する現場におけるストレス要因の査定や対処法、その1手段としての心理カウンセリングに関連するテーマによる卒業論文(卒業研究)作成の計画を行う。			
成績評価法	授業中の発表(例えば、発表内容や発表レジュメの出来具合で50%)や課題レポート(20%)、ゼミ生間の質疑応答の内容(30%)などによって評定します。			
テキスト	特に、指定しません。			
参考書	坂本真士・佐藤健二編 はじめての臨床社会心理学 有斐閣 杉山・前田・坂本 編 これからの心理臨床 ナカニシヤ出版 若島・都築・松井 編著 心理学実験マニュアル 北樹出版 加藤 司「心理学の研究法」(改訂版) 北樹出版 など、その都度、紹介します。			
履修に当たっての注意・助言/準備学習	演習は講義とは異なり、学生の積極性がなければ成立しません。ゼミ発表は、社会人に必要なプレゼンの練習ぐらいの意識をもってください。卒業までは、まだ時間があると安心しないで、3回生から具体的な研究計画をたてましょう。 ゼミが開始される前までに、自分の専門的に研究する領域の確定は最低限行っていること、また、ゼミ中に何かの作業をするのではなく、ゼミの時間は報告の時間、次のゼミまでにこの課題を自らの手で完了する姿勢を常日頃から形成することを要求します。少なくとも、方法論でいえば、種々の統計処理はマニュアルを参照しながらでも独力で行えるようになることが必要です。			
講義計画				
前期に、それぞれの卒業論文のテーマをおおまかに決定できるように、文献研究を中心とした作業によって発表をしてもらいます。そして、後期には、データ・サンプリングの計画や分析法の下敷きをつくることができれば理想的です。3回生のうちに、研究計画が完成していることを目標とします。 ゼミ生の人数にもよりますが、今年度は、1人につき2～3回はレジュメを用意しての発表を行っていただく予定です。 勿論、卒業論文のヒントになるような話題も挿入しながら進めたいと考えています。 ゼミ生の進行状況によって、変動しうるが予定は以下の通り 第1回～第5回：研究計画の立て方 第6回～第10回：研究テーマの決定 第11回～第15回：研究方法(デザイン)の決定 第16回～第20回：予備的研究の実施計画 第21回～第25回：実施と修正箇所の考察 第26回～第30回：論文序論の執筆開始と完了				